



## 令和5年度 府中市立府中第七小学校 経営報告

### 1 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動への取組と自己評価

「つよく」丈夫な体と強い意志をもち、責任をもって最後までやり遂げる力。  
健やかな体の育成 ～しんの強い子～【行動力】

「つよく」の目標について、上記の取組を実施し、以下の成果を得た。

◎「パワフル7（セブン）」は、2年連続で、縦割り班から学年に切り替えたことで、より発達段階に合わせた体カづくりができた。

◎1学期「体カテスト」2学期「マラソン」3学期「なわとび」と集中して運動し、運動の習慣化につながった。

◎「ふちゅうロープチャレンジ」では、全学年がチャレンジし、1年、2年、3年、4年、5年の全クラスが上位入賞を果たした。中でも5年生は、「規定A」で優勝（達成賞）、今年度から新しく入った種目「ダブルダッチ」でも優勝と抜群の成績を残した。

◎92%の児童が、「行事や仕事などを最後までできた」と回答した。保護者アンケート「行事に積極的に取り組んでいる」でも87%の肯定的評価を得た。

◎自己肯定感は、81%の児童が肯定的評価をもつことができた。どの子供にも活躍の場面を設定し、励ましや応援を受けられるようにする。

◎一昨年度から継続して「自慢できるクラスづくり」を目標に、児童、教職員に呼び掛け、2学期末には、全学年全クラスの「クラス自慢」を全校朝会で発表した。よりよいクラスをつくろうとする向上心、所属感や自己肯定感が高まり、クラスを誇りとする意識が芽生えた。来年度は、「学年自慢」として取り組みを一段引き上げたい。

「ただしく」基礎学力を身に付け、真理と正義を愛し、主体的に考え、判断し、すすんで創造的に行動する力。確かな学力の向上～学び続ける子～【問題解決力】

「ただしく」の目標について、上記の取組を実施し、以下の成果を得た。

◎児童の自己評価において、83%が「学習が分かる」、保護者の学校評価において、841%が、「学校は、分かる、できる授業づくりに努めている」との回答を得た。

◎基礎・基本の達成率は、全学年で84%となった。

◎様々な授業や学習活動の場面で、自らの考え方や感じ方について発言したり、文章に記述したりする機会を増やし、思考力・判断力・表現力を養うことができた。

◎毎月の「詩の暗唱」は、86%の児童が肯定的な評価となった。3年生が「学校自慢」に、この「詩の暗唱」を取り上げ、他学年や他校に紹介したことから、七小の文化として、更に豊かに、楽しく、暗唱への意欲が高まるよう手だてを工夫する。

「あたたかく」自他の人格を尊重し、豊かな心情をもって共に生きることのできる力。  
豊かな心の醸成 ～思いやりのある子～【人間関係形成力】

「道徳教育の充実」

「あたたかく」の目標について、上記の取組を実施し、以下の成果を得た。

◎ふれあい月間の取組として、6月に「ふわふわ言葉」の取組、11、2月に「ありがとうの木」の取組を実施でき、穏やかな言葉遣いや感謝の気持ちをすなおに表す意欲が高まった。6年生は、人権をテーマにした作文を書いた。自他を大切にできる心情を養うことができた。

◎「未来へつなぐ府中2020レガシー」の推進として、東京都教育委員会の「子供を笑顔にするプロジェクト」に参加し、劇団「風の子」さんをお招きし、全校で伝統芸能の体験学習が実施できた。

「道徳教育の充実」について

◎今年度も、弁護士による「いじめ予防」の特別授業を第5学年で実施し、「安心」「自由」「自信」をキーワードに「人権の大切さ」について学習できた。保護者や地域の方に、「いじめ予防」の特別授業を解説する講話も公開することができた。次年度も、「道徳授業地区公開講座」として、第5学年の児童に、弁護士による「いじめ予防」の特別授業を実施し、保護者・地域に向けた講話を予定している。

## 〈目指す教職員像への取組と自己評価〉

### 「地域協働・チーム七小・笑顔の学校」として組織的に協働できる教職員

- (1) 教職員がそれぞれの持ち味を發揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりを推進する。
- (2) 「OJT」に取り組み、学び続ける。
- (3) 「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を、組織を活用し実践する。
- (4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。
- (5) 教育相談体制を整え、特別支援教育を推進する。
- (6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。
- (7) 法令遵守、服務規律の徹底。
- (8) 武蔵台小学校・府中第七中学校との小中連携、一貫教育を推進する。
- (9) 働き方改革
- (10) 危機管理

「目指す教職員像」について、上記の取組を実施し、以下の成果を得た。

- ◎適材、適所でそれぞれの持ち味を發揮し、各学年とも順調に経営ができ、創意とチャレンジの気概をもって、「子供のための教育」で「チーム七小」として協働し、組織力の高い職場に育ってきた。
- ◎学校経営支援事業（配当予算287万4,000円）・副校長等校務改善事業（179万3,400円）を有効に活用できた。
- ◎校内研究会、職員会議や職員夕会の時間枠を有効活用し、「ミニ研修会」などの「OJT」に取り組んだ。若手、ベテランに関わらず、日常での「学び続ける習慣」が身に付いてきた。次年度は、「ミニ研修会」を更に工夫し、改善して取り組む。
- ◎「ひばり教室」が2年目となり、アンガーマネジメントの研修会を合同で2回、開いたり、拡大校内委員会を開いたり連携を図ることができた。
- ◎関係各所と連携し、「避難所開設訓練」「70周年準備委員会」等、活動ができた。
- ◎人的予算が付き「サポートルーム」の運営が軌道に乗り、教室に行くことに抵抗のある児童のよい居場所になり、教室への滑走路的な場所となり、支援が進んだ。
- ◎「小中連携の日」を中心に、「挨拶運動」や「パワーアップチャレンジ週間」、「展覧会」での連携など、七中学区の小中一貫教育の推進ができた。
- ◎「ふくむニュースレター」など、服務に関する通知は、校務支援システムの掲示板にアップし、読後、確認の返信を全員に求めた。常に服務事故は誰にでも起こりうるという謙虚さや危機管理意識をもって、業務にあたり、「服務事故0」を継続できている。
- ◎「いじめ」の早期発見に努め、迅速に「いじめ対策委員会」をもち、適宜、適切な組織的対応を取ることができた。
- ◎アレルギー対策委員会は定期及び必要に応じて開き、情報を共有し、アレルギー対応食の提供の仕方など確認し、事故のないよう対応することができた。

## (2) 重点目標への取組と自己評価

### 児童の重点目標への取組と自己評価

#### 1 「つよく」

オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

#### 2 「ただしく」

オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

【目標：3年生以上 学年×1,000以上、達成率70%】

#### 3 「あたたかく」

ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

「児童の重点目標」について、上記の取組を実施し、以下の成果を得た。

「つよく」◎オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

- ・自分にはよいところがある75% ・自分に自信がある81%
  - ・自分は頼りにされた、役立った71% ・自分にいいなと思うところがある77%
- 各項目とも、目標の75%を超える結果となった。学活などで子供のよいところをたくさん見付けたり、子供の活躍できる場面を多く作ったりしたことで自己肯定感が高まってきた。次年度は、「全校クラス自慢」の発表に「学年自慢」を加えるなどして、取組を確かなものにし、継続していく。

「ただしく」◎オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

読書活動の推進について

学期ごとの読書週間を設け、全校で取り組むことを通して、読書への意識は高まった。3年生以上の「学年×1000ページ」の取組については、個人差が大きく、目標の70%達成には、届かなかった。読書推進委員会の活発なリードを挺入れする必要がある。

「あたたかく」◎ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

学校評価では、83%、児童の自己評価では、90%の肯定的評価があり、目標の85%をほぼ達成できたと考える。次年度以降も、更に気持ちのこもった挨拶ができるように指導を工夫し、継続していく。

## 教職員の重点目標への取組と自己評価

(3)「分かる・できる」「確かに豊かな学びのある」授業を、組織を活用し実践する。

【目標：学校評価85%以上】

(4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。

【目標：学校評価85%以上】

(6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。

【目標：学校評価85%以上】

(9) 働き方改革

【目標：全教職員 1か月の定時外在校等時間 45時間未満】

「教職員の重点目標」について、上記の取組を実施し、以下の成果を得た。

(3)「分かる・できる」「確かに豊かな学びのある」授業を、組織を活用し実践する。

【目標：学校評価85%以上】

保護者の学校評価では、82%が「分かる・できる」授業づくりに努めている。」児童の自己評価では、84%が「学習が分かる」との回答を得た。目標の85%に後、少しではあるが届いていない。次年度以降も授業改善プランの更なる工夫や学力向上の手だてが必要である。

(4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。【目標：学校評価85%以上】

学校評価の「学校は安全・安心に努めている。」の項目では、保護者から98%の肯定的評価を得た。「七小防災会議」の避難所開設訓練に児童の見学を取り入れたり、児童の災害安全教育「防災プロジェクト」で、府中消防署や消防団、PTAの防災教育と連携し、実施したりできたことがしっかり認識されていると自負している。次年度も、関係諸機関と連携、調整して、七小の防災文化を継続していく。

(6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。【目標：学校評価85%以上】

「学校は教育方針や学校の様子を家庭や地域に分かりやすく伝えている。」の項目で、94%、「学校は、関係諸機関と連携して地域に根差した学校づくりに取り組んでいる。」の項目で92%と目標を上回ることができた。「地域協働、チーム七小、笑顔の学校」を合言葉に、地域に開き、連携しようとする意志を感じていただけたものとする。次年度も更に、学校の情報発信に努め、地域に根差した学校づくりを実践する。

(9) 働き方改革【目標：全教職員 1か月の定時外在校等時間 45時間未満】

全教職員、1か月の定時外在校等時間の45時間未満を達成することができなかった。昨年度に比べると、意識を高くもち、45時間を超えないように気を付ける職員は増えた。後、少しで残業時間45時間未満を達成できる手応えがあった。週案簿の電子化については、当初、なかなか軌道に乗らなかったが、学年の後半には、週案作成のリズムも作れてきた。「スマート連絡帳」や「PC 掲示板」は、昨年度に増して有効活用されるようになった。

引き続き、学校経営支援事業、副校長等校務改善事業を有効に活用し、ICTの有効活用を促進し、更に業務の効率化、合理化を推進する。

## 2 次年度以降の課題と対応策

◎授業改善を推進し、学力向上を図る。

- 研究推進委員会が中心となって、「主体的、対話的、深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組む。既にある「七小学習・授業スタンダード」の徹底をはじめ、授業改善プランの手だての実践、PC 掲示板と職員夕会の時間を使った「授業ワンポイント研修（仮称）」など、授業展開や指導技術について双方向で教え合う時間と場を設定する。次年度は、研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を踏襲し、副題については、新しいメンバーで決定していく。講師の方は、年間を通して招聘させていただけるよう依頼する。

また、「GIGA スクール構想」4年目として、情報教育推進リーダーと研究主任を中心として、端末をいかに活用するか研修し、全教員が具体的なスキルを身に付け、「デジタル教材」の活用、開発に組織的に取り組む。

◎カリキュラム・マネジメントを推進し、教育目標の達成を図る。

- 教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを動かし、変えていく、継続的かつ発展的な課題解決の営みを推進する。
- 教務主幹を中心として、学校教育の効果を常に検証し、学校評価を反映、改善するシステムを見直す。来年度は、「学年末学校評価」ではなく、気付いたときに「学校評価」ができるよう、日常的に評価を記入できるようにし、12から1月でまとめる形式に改善する。
- 校務分掌に基づき、教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、七小の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを実践する。
- 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教育目標を踏まえた教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程を創造できるようにする。
- 教科担任制など、学年で取り組めるところは取り組み、授業の質を高め、学習効果を上げる。

